

平成29年11月4日（土）入試説明会 卒業生スピーチ（O. M. さん）

こんにちは。私は今年の春にこの学校を卒業し、現在東京大学教養学部文科二類に所属している O. M. と申します。

今日は、皆様の貴重なお時間を少しいただいて、お話をさせていただきます。よろしく願いいたします。

さて、今日私が皆様にお話しさせていただくのは「なぜ人生には辛いことがあるのか」ということです。この学校の話聞きにきたのに、まだ 20 歳にもなっていない人がなんと大それたテーマについて話すのか、と思われたかもしれませんが、実は私が湘南白百合に通って得た 1 番大きなことは「人生に辛いことがある理由の 1 つ」なのです。

高2のとき、私は信じられないくらいたくさんさんの困難を経験することになります。あとにもこんなに思い悩む年はあるのか、と思うくらい色々なことがあったんですね。その中でも 3 つ、自分にとっては非常に大きなことがありました。

まず、同学年で衝撃的な人に出会いました。私は英語が得意で、自分は英語に関しては負けない、と高をくくっていたのですが、同級生に英語がとてつもなくできる生徒がいて、彼女たちがいきなり本気を出し始めたんですね。結局その人たちはアメリカの大学に進学したのですが、彼女たちの圧倒的な英語力を目の当たりにして、そこで初めて自分が絶対的に得意だと思っていたものがガラガラと崩れていくような感覚に陥りました。裏切られたような気がしました。

次は人間関係です。私は聖ポーロ祭（文化祭）の実行委員長をやっていたのですが、同じ部門の相手とうまくいかなくなってしまいました。2 人が目指す実行委員像が異なっていたため、ケンカばかりしていました。その時は本気で実行委員なんてやめたい、と思ったし、自分の意見を全く分かってくれないことに対してとてもイライラしていました。

最後はクラスの雰囲気です。私はホームルーム委員という、学級委員のような役職についていたのですが、高2最後の行事である球技会で私のクラスが大敗してしまい、すごく空気が悪くなってしまったのです。追い討ちをかけるように、ホームルーム用にとったアンケートに「ホームルーム委員が全然仕事をしないから今回の球技会で負けたんだ」と書いてありました。それを見て同じクラスのホームルーム委員だった友達と教室で号泣しました。

このように高2の1年間で様々な辛いことを経験した私ですが、高3でもその苦悩は続きました。それは受験勉強です。受験勉強は文字どおり苦悩の連続でした。なぜこんなに苦しい思いをして大学に行かなければならないのか、成績が落ちたり本番が近づくとつれて、そればかり考えていました。

受験が終わってからも苦悩は続きました。入試二日目の帰り道、1 番の得点源であるはずの英語で失敗して完全に落ちたと思い、電車の中でずっと「この1年間はなんだったんだろう」と考えていました。この二日間のために必死に勉強してきたはずなのに、全てが無駄になった気分でした。合格発表を待つ間は、東大に落ちたら浪人するべきなのか、第二志望の学校に進学するべきなのか、など進路のことも考えました。

そして合格発表の前日。不安だ、と言い続ける私を見かねて、母親が「受験で自分が得たもの」について書き出すように言いました。その時、初めて自分の 1 年間を客観的に見ることができたのです。そしてそこから得た結論は次の通りでした。

「自分を律する力」「あと一步のところまで逃げない力」「何があってももう1回立ち上がる力」「あと1分でもめげずに解答を書き続ける力」「支えてくれる周りの人に感謝する力」
そして「1つのことに向かってまっすぐに努力し続ける力」

ここまで書いた時、私は自分が受験勉強を頑張った意味を見出しました。そして、こんなにも1つの目標に時間も熱意も注いだ自分を、初めてすごいと思えました。

それは、受験が辛いから、に他なりません。

そして、高2の頃に起こった様々な辛いことの意味についても考えてみました。すると、今までは次から次へと物事が起こったために気づかなかったけれど、その1つ1つを受けて学びがあったことに気づきました。

英語ができる同級生に対して抱いた劣等感は、自分の英語力に満足することなく努力し続けるモチベーションになりました。

人間関係に関する苦労も、一つのものを作り上げるためにどのように仲間と協力すれば良いのかを知り、自分の意見が必ずしも絶対ではないことを学ぶ機会となりました。

クラスの雰囲気が悪くなった時も、どうすれば改善できるのかを必死に考えて、クラスについて考え直すホームルームを開いたり、教室が明るくなるようにクラスメイトから集めた思い出の写真を使って可愛い装飾を作ったり、試行錯誤しました。あれほど自分のクラスに真剣に向き合うことは、一生のうちでも高3の時だけだと思います。

つまり、辛いことには必ずあとで自分が成長できる発見があるのです。逆に、辛いことを経験しないと得られないことがあるのです。そして何よりも辛いことがあるからこそ、終わった時に得られる喜びは大きいのだと思います。

高2の文化祭が終わった時、誰もいなくなった体育館で今まで自分がこの文化祭にかけてきた全ての時間、熱意を思い出して胸が熱くなりました。家に帰って同じ実行委員の同期や後輩からもらった「Oさんが実行委員長でよかった」という言葉を見て、辛いことの連続だったけれども頑張ってきてよかったと実感しました。何より、相方がいなかったら絶対に成功しなかった、と改めて感謝しています。

第一志望の合格発表日、自分の番号を見つけた瞬間に自然と涙が溢れてきました。楽しいことから背を向けて夜遅くまで机に向かい続けたこと、できない自分に何度も失望し、泣きながら問題を解き続けたこと、不安と緊張の中受験会場で最後の最後まで粘ったこと、全てを思い出して、涙が止まりませんでした。

一緒に発表を見てくださった先生が泣いて喜んでくださり、両親から「お疲れ様、よく頑張ったね」と言われた時、自分がいかに周りの人に助けられてここまで来ることができたかを実感しました。

もし辛い思いをせずに成功してしまったら、努力して何かを得る喜びも、自分が周りの人に支えられていることも何もわからずに終わってしまうのだと思います。

湘南白百合はお嬢様学校というイメージが強いですが、実際は一人一人が自分のやりたいことに精一杯、元気に取り組む学校です。私はこの学校で色々な経験をさせてもらいました。特に行事は、生徒が主体となって行うので非常に盛り上がります。もちろん行事が盛んであればあるほど責任者が経験する苦労も多くなります。しかし、私は先ほど述べたように、辛いことがあるからこそ得られるものは非常に価値のあるものだ、ということ湘南白百合で過ごした6年間を通じて実感しました。

大学に入ってから、学園祭で出すクラスの模擬店の責任者をやったり、サークルでリーダーをやっ

たりと、積極的に責任を伴う仕事につくようにしています。それは、自ら大変な道を選ぶことで、それを一生懸命成し遂げた者にしか体験できない、何にも変えられない宝物のような喜びを味わいたいからです。

この中には受験を控えている方も多くいらっしゃると思います。同じ受験を経験した身として、もう少し自分の受験時代についてお話しさせていただきます。

受験は誰にとっても辛いものです。本番が近づくにつれて自分のできなさに失望したり、できる友達や一生懸命勉強している友達を見て胸が苦しくなったり、返却されたテストが悪くてお母さんに怒られるんじゃないか、と家に帰るのが嫌になったり、受験会場に向かう自分が想像できなかつたり。それこそが受験です。逆に、辛いからこそ合格した時に嬉しいのです。人は精一杯頑張った時、涙が出ます。涙が出るくらい勉強して、合格して、涙が出るくらい嬉しいと思えるのはとても尊いことだと思います。

そして忘れないで欲しいことは、絶対に自分の家族や学校の先生、塾の先生は皆様のことをいつでも応援しているということです。そして、その人たちのおかげで頑張ることができる、ということです。私はどんなに自分が落ち込んでいる時でも、いつも通りに接して好きなものを作ってくれた母親と、受験勉強にかかるお金を一生懸命働いて稼いでくれた父親がいなかったら会場に向かうことすらできませんでした。忙しい時でも週末に取り組めるよう添削課題をその週のうちに返して下さったり、私の不安一つ一つをしっかりと聞いて受け止めて下さった湘南白百合の先生方なしでは自分がずっと憧れていた第一志望の学校に合格することはできませんでした。

今の辛いことは、一生懸命向き合っただけ回り道をしながらも努力を続けていけば、必ずあとになっていい思い出になります。そこから得られるものは非常にたくさんあります。その宝物を得るために、体調に気をつけて毎日精一杯やるべきことをやって欲しいと思います。

そして、湘南白百合には、卒業して久々に学校を訪れた私の顔と名前を覚えてくださり「生徒は子どものようだから、卒業生に会えると嬉しい、家族みたいだ」と私を暖かく迎えてくださる校長先生、生徒の合格に対して涙を流して喜んでくださる先生、忙しい時でも合間を縫って生徒の話に耳を傾けてくれる先生、一緒に何かを作り上げる大切な仲間、お互いの喜びや悲しみを共有してくれる友達、友達に「ありがとう」と感謝の気持ちを惜しみなく伝えられる同級生、自分たちで企画、運営でき全校が一体となって盛り上がるたくさんの行事、そして可愛いセーラー服と、全てが揃っています。私は自分が、一生に一度の中高生活という青春を湘南白百合で過ごしてきたことに、心から誇らしさを感じています。湘南白百合は、皆様の6年間を必ず一生のキラキラした思い出にしてくれる学校です。その証拠に、たくさんの卒業生が遊びに来ます。職員室に行けば、先生に嬉しそうに近況報告をし、それを笑顔で聞いて温かく迎えてくださる先生の姿をよく見かけます。卒業してからも再会すれば駆け寄ってハグをし、お互いの大学の学園祭に遊びに行ったり、ご飯を食べて一瞬で中高時代の自分に戻れるような一生ものの友達がたくさんできます。

これから先、ますます寒くなりますが体調に気をつけて、充実した毎日をお過ごしください。特に受験生の皆様におかれましては、自分が最後に「これでよかった」と思える運命の道に進むことができますことをお祈りしています。

本日はお忙しい中、私の拙いお話を聞いてくださり本当にありがとうございました。